

りんどう晩生品種「いわて中秋のあい」の全茎収穫栽培

【概要】

「いわて中秋のあい」での全茎収穫栽培(図1)の条件は以下のとおりです。

- 1 収穫後の切り下株の節数を15節確保します。
翌年も慣行栽培とほぼ同等の草勢(草丈)を維持できます(表)。
- 2 草丈が175cm前後まで伸びたほ場で行います。
商品花収量が慣行栽培よりも株当たり2本程度増加します(図2)。

【試験データ等】

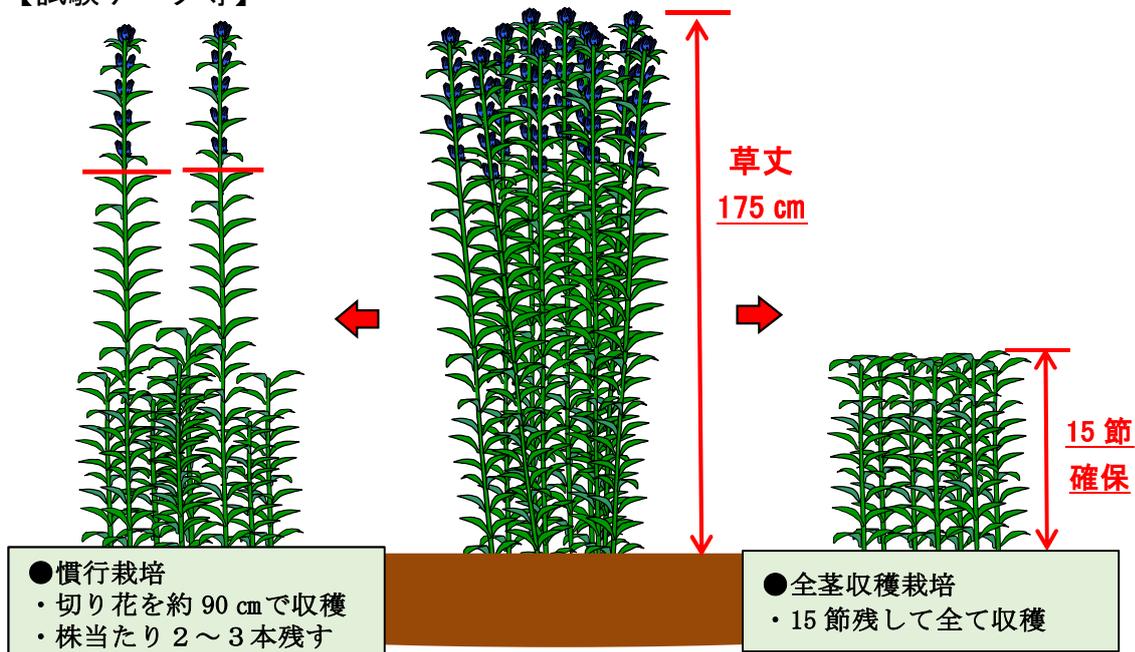


図1 全茎収穫栽培のイメージ

表 草丈の推移 (R4~R5)

	草丈 (cm)	
	R4 (3年生株)	R5 (4年生株)
慣行区	164.8	⇒ 134.5
15節残し区	163.5	⇒ 139.4

※R4に処理(図1)を実施し、R5に評価

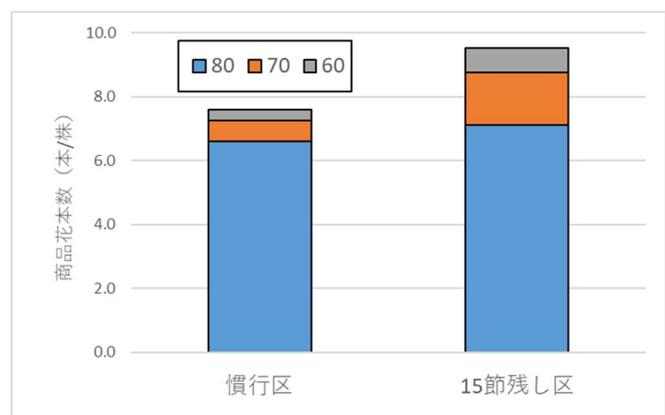


図2: 草丈175cm前後の場合の商品花収量 (R2)

※規格は「岩手県青果物等標準出荷規格」に基づく

- ・「80」: 切花長80cm、花段数5段以上
- ・「70」: 切花長70cm、花段数4段
- ・「60」: 切花長60cm、花段数3段

【令和5年度成果】

りんどう晩生品種「いわて中秋のあい」における全茎収穫栽培の適用条件 (R5-指-31)